

大腸がん検診を受診される方へ

【がん検診の目的】

がんを早期に発見し、治療することで、がんによる死亡を減らすことを目的としています。がんは早期発見・早期治療で約 9 割が治ると言われています。しかし、早期のがんではその多くが無症状です。がん検診は自覚症状のない時期から受けることで、がんを進行していない状態で発見することができます。

【がん検診のメリット・デメリット】

がん検診を受けることには、がんを早期に発見できるというメリットがありますが、デメリットもあります。十分に理解したうえで検診を受けましょう。

〈メリット〉

①早期のがんを発見でき、救命の効果があります

早期であればあるほど、治せる可能性は高く、軽い治療で終わることができる場合が多いため、身体的・経済的な負担も少なく済みます。早期発見と適切な治療の開始、それに伴う救命が最大のメリットです。

②がん以外の病気も見つけることができます

がん検診では早期のがんだけでなく、がんになる前段階の病変（具体的にはポリープや潰瘍、異型上皮など）が見つかる場合もあります。こうした病変が軽い場合には経過を観察し、必要時は治療をすることで、がんになることを防ぐこともできます。

③安心して生活ができます

がん検診を受けて、「異常なし」と判定されれば、安心して生活することができます。しかし、1 年に 1 回の定期的な受診を継続することが重要です。

〈デメリット〉

①結果が必ずしも正しいというわけではありません

がん検診で必ず、がんや前がん病変を見つけられるわけではありません（偽陰性）。また、がんや前がん病変でなくてもがん検診の結果が「要精検」となる場合もあります（疑陽性）。

②不必要な治療や検査を受けてしまうことになる可能性があります

検診で見つかるがんには、その後進行がんにならない等、生命に影響しないがんもあります（過剰診断）。現段階では、このようながんと普通のがんを区別することができないため、手術などの治療が行われますが、本来不要な治療だった可能性もあります。

また、偽陽性だった場合にも精密検査を受ける必要があり、結果的には不要な検査を受けることで、身体的・心理的にも負担がかかる場合があります。

【大腸がんについて】

日本では罹患する人が増加しており、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。大腸がん検診で早期に発見して治療することにより、大腸がんで亡くなることを防ぐことができます。検診は自覚症状がないうちに受けることが大事です。

【検診の結果について】

- 検診結果は益田市に報告されます。
- 精密検査の対象となった場合には、必ず精密検査を受ける必要があります。（もう一度便潜血検査をするのは良くありません。一度陽性が出たら、必ず精密検査を受けてください。）
- 精密検査は一般的には全大腸内視鏡検査です。全大腸内視鏡検査が困難な時は、大腸内視鏡検査と注腸 X 線検査を組み合わせた検査などを行う場合もあります。
- 精密検査結果は益田市に報告されます。また他の医療機関に精密検査を受診した場合は、検診機関と益田市もその結果を共有します。